

令和 3 年 6 月 4 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2020

課題番号：18K01501

研究課題名（和文）社会厚生と福祉国家

研究課題名（英文）Social Welfare and the Welfare State

研究代表者

加藤 晋 (Cato, Susumu)

東京大学・社会科学研究所・准教授

研究者番号：30553101

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、多次元のアプローチを導入しつつ、福祉国家における厚生評価と厚生改善という、厚生経済学の基本的な課題に立ち返った。第一に、社会選択理論の公理的分析を発展させた。特に、標準的なアロー的分析枠組みの拡張と、公平性の概念の分析を行った。また、さまざまな政策的応用も行った。第二に、近年の福祉国家論において重要である、正義論の歴史的・哲学的背景についても議論した。第三に、厚生に関する実践的アプローチについても行ったが、特に、新型コロナウイルスのパンデミックの発生も踏まえ、健康をどのように維持するかという問題についても考えた。こうしたことを踏まえて、福祉国家と社会厚生との関係を検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現在、社会厚生を改善するための制度としての福祉国家は岐路に立っていると言える。社会をより前進させるためには、何か変化が必要のように思える。厚生に関する分析的理論、思想的背景、実証的実装の複合的観点からよりよい社会のあり方を目指して研究を進めた。特に、公平性の評価をどのようにするかということ、多次元的に捉え、そのほかの基準とどのように組み合わせていくかということを検討した。

研究成果の概要（英文）：This project revisited the fundamental issue in welfare economics by incorporating multidimensional approaches. First, we developed a series of theoretical arguments in the field of social choice theory. In particular, we extended the standard Arrowian approach and investigated concepts of equity. Applications to some policies were also provided. Second, we provided historical and philosophical approaches to theories of justice, which have been essential to the current debate on welfare states. Third, empirical arguments on welfare issues were conducted. We especially focused on the health of people because of the COVID-19 pandemic.

研究分野：厚生経済学・社会選択理論

キーワード：福祉国家 貧困 不平等 機会の平等 公平性 潜在能力 社会選択

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1)

多次元価値に基づく公平な評価に関する不平等や貧困の問題が、より重要になりつつある。特に、人々の生活がより多様なものとなるとともに、人々の価値観も多様になってきている。こうした状況の中で、社会的な状態の評価を行うことは、厚生評価と厚生改善という厚生経済学の根本問題にとって大きな課題を突きつけている。

(2)

福祉国家は、それ自体として歴史の中で漸進的に変化して生まれた制度であり、厚生最大化のためのシステムとしてもともと設計されたものということはいできない。しかし、福祉国家の重要な目的は人々の生活の保護や厚生改善であるがゆえに、21世紀となり岐路に立つこの20世紀的国家像を公平性や効率性といった観点から考え直す必要がある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、社会選択理論と厚生経済学のアプローチを拡張しながら、多元的評価方法を構築し、福祉国家の在り方と福祉政策のリフォームを再検討することにある。特に、伝統的な厚生概念を再検討し、代替的な指標の考案・正当化・応用といった作業を行う。公理的な分析からスタートさせながら、福祉国家の背景にある思想や規範的基礎にも着目するとともに、その実証的実装もある。

3. 研究の方法

(1) 社会選択理論

本研究の第一の方法は、社会選択理論に基づく公理的アプローチである。社会にとって望ましいと思われる規範的要件を抽出し、それを公理として定式化し、数理的分析が可能となる。複数の公理の論理的関係から、その規範的含意を分析するという作業を行う。

(2) 応用ミクロ経済学

ゲーム理論、また、一般均衡理論といったミクロ経済学の基本的な道具を用いて、厚生と福祉の分析を行う。特に、公平性の分析においては、一般均衡理論で広く使われるN次元の消費財の空間が有用であり、それを拡張することで分析を進める。また、産業政策、労働政策の規範的問題を考える上では部分均衡を用いて、各エージェントの戦略的意思決定も導入する。

(3) 哲学的分析・歴史的アプローチ

言語的分析と公理的分析を組み合わせることで、現在の政治哲学とオーバーラップする領域についても研究を進める。特に、オックスフォード言語学派のアプローチがいかに規範的観点を許すかということは、その後の厚生経済学・政治哲学の発展にも重要である。特に、20世紀初頭以前の規範的分析の発展には社会主義が大きな役割を担っていた。これらを踏まえ、学史的観点からも研究を進める。

(4) 実証による実装

調査データを用いて、厚生に関わる問題を分析する。

4. 研究成果

(1) 社会的評価の基礎問題

社会選択理論の不可能性定理に関わる基本的な集計の問題を考察した。通常の枠組みでは、集団的意思決定手続きの不可能性定理が知られている。本研究では、特に、複雑に変化していく時間の流れの中でどのように意思決定を行っていくべきかを考察した。第一に、将来を無限の時間と捉えて、将来世代まで考えたような社会選択の問題を定式化して分析した。このような状況下では、匿名的な社会的決定でありながら、通常不可能性定理が示唆するような独裁制に陥ることなく集団的意思決定が可能となることが示された。しかしながら、時間の中で整合的に意思決定を行うことを要求してしまえば、不可能性定理が復活してしまうことも示された。

こうした問題の背景には、社会的意思決定の情報的基礎が特定の公理により、かなり制約されることがある。この点を踏まえて、社会的意思決定の不完備性などにも注目して研究を進めた。

(2) 福祉社会・民主社会の基礎としての投票システム

近代以降に発展した福祉社会・民主社会においては、投票に基づく意思決定が含まれる。投票は、単純な個人的意思表明の集計手続きであるが、多くの問題を抱えていることが知られている。投票システムがどのような場合に、決定不能に陥るかを明らかにすると共に、それを避けるための抽象的構造を分析した。特に、conditional prefilter という概念を導入して、ボルダ・ルールを含めた多くの集計手続きにおける背後にある構造を明らかにすることに成功した。これを用いて、Fréchet prefilter という新しい数学的構造を導入した。よく知られている Fréchet Filter を含んだ広いクラスの prefilter 構造であるが、社会的選好の非循環性には決定的に重要となる。

(3) 潜在能力と共通部分アプローチの拡張

潜在能力の議論で用いられる有用な評価方法は、「共通部分アプローチ」である。多次元的な

評価を行う際には、多次元でのそれぞれの評価の共通部分を取ることで、規範的な観点から、より安心して使うことのできる評価の「部分」を抽出するというのがそのアプローチの本質である。しかし、このアプローチは大きな難点を抱えている。それは、考慮に入れる次元が増えれば増えるほど、抽出される部分が小さくなってしまい、ほとんど重要な問題について、何も判断をしない「判断拒否」に陥る可能性があることである。本研究では、こうした点も踏まえて、ある程度安心して利用でき、より多くの判断を残すことのできる、union-intersection アプローチというものを考案した。このアプローチを実際に適用することを通じてどのような機能を持つかを調べた。

(4) 将来への不安へと備える方法の分析

福祉国家は、人びとの将来への不安を解消するように社会厚生を守る必要がある。しかし、それは、必ずしも良い方向に結びつかない可能性がある。逆サンクトペテルブルクのパラドクスと呼ぶ問題を定式化し、この点を明らかにした。つまり、小さな確率で極めて大きな被害が生じうるような状況に直面している福祉国家の政府は、人々の期待効用を考慮しすぎて、危機への準備をあまりに多く行ってしまふ可能性がある。事後的な微小な改善のために、現時点で無限の費用を払うことは直観的に望ましいこととは言い難い。こうした問題を指摘した。

(5) 公平性の分析

無羨望条件を分析し直して、平等性等価と呼ばれるもう一つの条件を考察した。これらの条件は、人々の厚生の平等を考える上での基礎的な要件となり得る。しかし、これらは人口が多いような社会では、全く異なる制約を与える可能性が高いことを示した。鍵となるのは、人々の選好の多様性である。人々の選好が一樣なものであれば、いくら人口が多かろうともこの二つの規範的条件は整合的になる。しかし、これからの多様な社会では異なる要求をするがゆえに、福祉国家の公平性のあり方はある種のトレードオフに直面することを明らかにした。

(6) 厚生経済学・正義論の言語分析的基礎

規範的問題を考える上での基礎は、人々間のルールである。いかなる国家であれ、何らかの厚生判断を行うとすれば、それを支える共通理解が必要である。このような共有理解は、事実と価値の二つの命題の間をつなぐものとなり得る。規則の概念を言語分析の観点から再考することで、この間をいかにつなぐかということ考察した。「約束」などの、規範を生み出す社会的活動に注目した。

(7) 健康の厚生経済学

2020年より発生した、新たに発生した新型コロナウイルスのパンデミックを踏まえつつ、厚生経済学的観点から、応用的分析を行った。調査データに基づき、社会的選択理論、厚生経済学、福祉政策の既存研究の理論的整理のもとに、調査の専門家と実証研究の専門家と緊密に研究会を重ねることにより、厚生経済学の実証分析や実践的応用を進めた。こうしたうえで、公共財理論を基礎とした、ソーシャルディスタンスの公共的性質を明らかにし、その厚生的含意を明らかにした。インフォデミックの問題を検討し、不確実性の存在がパンデミックのもとで厚生に与える影響を実証的側面から検討した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 13件／うち国際共著 2件／うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Cato Susumu, Matsumura Toshihiro	4. 巻 175
2. 論文標題 Entry License Tax: Stackelberg versus Cournot	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Institutional and Theoretical Economics	6. 最初と最後の頁 258 ~ 258
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1628/jite-2019-0015	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Cato Susumu, Matsumura Toshihiro	4. 巻 87
2. 論文標題 Optimal Production Tax in a Mixed Market with an Endogenous Market Structure	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Manchester School	6. 最初と最後の頁 578 ~ 590
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/manc.12266	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Cato Susumu	4. 巻 71
2. 論文標題 REMARKS ON A PROCEDURAL CONDITION FOR THE VOTING PARADOX	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Bulletin of Economic Research	6. 最初と最後の頁 549 ~ 557
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/boer.12193	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Cato Susumu	4. 巻 8
2. 論文標題 Compatibility of egalitarian equivalence and envy-freeness in a continuum-agent economy	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Economic Theory Bulletin	6. 最初と最後の頁 97 ~ 103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s40505-019-00168-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Cato Susumu	4. 巻 53
2. 論文標題 The possibility of Paretian anonymous decision-making with an infinite population	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Social Choice and Welfare	6. 最初と最後の頁 587 ~ 601
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00355-019-01199-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Bossert Walter、Cato Susumu	4. 巻 87
2. 論文標題 Acyclicity, anonymity, and prefilters	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Mathematical Economics	6. 最初と最後の頁 134 ~ 141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jmateco.2020.01.005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Susumu CATO	4. 巻 22(3-4)
2. 論文標題 Choice functions and weak Nash axioms	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Review of Economic Design	6. 最初と最後の頁 159-176
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10058-018-0215-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Cato Susumu	4. 巻 21
2. 論文標題 Extending the Intersection Approach	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Human Development and Capabilities	6. 最初と最後の頁 230 ~ 248
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/19452829.2020.1773776	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Cato Susumu, Iida Takashi, Ishida Kenji, Ito Asei, Katsumata Hiroto, McElwain Kenneth Mori, Shoji Masahiro	4. 巻 54
2. 論文標題 The bright and dark sides of social media usage during the COVID-19 pandemic: Survey evidence from Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Disaster Risk Reduction	6. 最初と最後の頁 102034 ~ 102034
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ijdr.2020.102034	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Bossert Walter, Cato Susumu	4. 巻 109
2. 論文標題 Superset-robust collective choice rules	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Mathematical Social Sciences	6. 最初と最後の頁 126 ~ 136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.mathsocsci.2020.10.007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Cato Susumu	4. 巻 71
2. 論文標題 Incompleteness, regularity, and collective preference	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Metroeconomica	6. 最初と最後の頁 333 ~ 344
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/meca.12276	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Cato Susumu	4. 巻 25
2. 論文標題 From the St. Petersburg paradox to the dismal theorem	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Environment and Development Economics	6. 最初と最後の頁 423 ~ 432
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S1355770X20000121	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 CATO Susumu, NAKABAYASHI Masaki	4. 巻 23
2. 論文標題 A Rehabilitation of the Institutional Approach to Japanese Economic History: Introduction to the Special Issue	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Social Science Japan Journal	6. 最初と最後の頁 137 ~ 145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/ssjj/jyaa024	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤 晋	4. 巻 71
2. 論文標題 正義論における規則と実践 サールの言語論から読み解くロールズ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 社会科学研究	6. 最初と最後の頁 5 ~ 20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34607/jssiss.71.1_5	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Cato Susumu	4. 巻 94
2. 論文標題 Preference aggregation and atoms in measures	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Mathematical Economics	6. 最初と最後の頁 102446 ~ 102446
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jmateco.2020.11.002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計3件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 Susumu Cato
2. 発表標題 Critical-level sufficientarianism
3. 学会等名 Population, Social Welfare, and Climate Change
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Susumu CATO
2. 発表標題 Collective Responsibility, Personal Responsibility, and Compensation
3. 学会等名 The 14th Meeting of the Society for Social Choice and Welfare
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Susumu CATO
2. 発表標題 Representing Suzumura-Consistent Collective Choice Rules
3. 学会等名 Central European Program in Economic Theory
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関